

第 16 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話(0545)55-2851
(0545)55-2852
FAX(0545)53-4633

消防団だより

支部長及び団長として

富士市消防団長 早坂 千賀夫



富士市消防団長に就任して三年目を迎え、昨年四月一日付けをもちまして、県消防協会富士支部長に就任したことに伴い、一言御挨拶申し上げます。

富士市・富士宮市・芝川町で構成される富士支部の消防団員各位には、日頃から献身的な御協力及び御活躍に對しまして、衷心より感謝する次第であります。

近年の消防環境は、時代の推移と共に厳しい現状を迎えております。とりわけ全国的に市町村合併が進む中、団員減少に拍車がかかり総務省も団員増加対応策を進めており、平成十七年二月には、県内消防団では唯一、団員増加活動により総務省消防庁長官より地域活動表彰を受賞しました。

これもひとえに、各団員が火災出動、訓練他多くの行事を行いながらの団員



あなたも、消防団に参加しませんか。

活動の賜物であり、目標である消防団員定数の九百名確保を目指して邁進して行きますよう。
また、昨年八月には第三十回静岡県消防操法大会が輪番制となり、初の東部開催(裾野市)で、我が富士市消防団は富士支部代表として出場し、小型ポンプ操法の部に優勝、ポンプ車操法の部でも第三位を獲得し、このダブル受賞に對しては開催地団長を始め、東部プロック各団長も県東部の底力を示せたことで、当市消防団の出場選手を含め、団結力と努力を高く評価し敬意を表しております。

更に、昨年十一月の静岡県消防大会は、富士市のロゼシアターを会場に、富士支部団員の強力な盛り上げで、かつてない来場者数を記録し、御陰を持ちまして盛會裏に開催できました事は、支部長として改めて御礼申し上げます。
結びに、いつ発生しても過言でないと言われ続けている東海地震に備え、各団員の団結力を更に深めるとともに、日常の訓練も緊張感を持って防災の要となり、市民の安全と安心を確保するために尚一層の努力をお願い致します。

平成18年 富士市消防出初式 写真コンクール



防火協会賞
作品名 出初式典
出品者 稲葉秀敏



市長賞
作品名 マンジョーネの舞
出品者 鈴木政美



消防団長賞
作品名 へりからの放水
出品者 早房道雄



消防長賞
作品名 太陽のしずく
出品者 上村一義



議長賞
作品名 放水
出品者 稲葉敏夫

新分団長の抱負



新分団長の抱負

第九分団 分団長 飯島 義行

我が九分団は、北に富士山、愛鷹山麓を望み、西は赤淵川、東は沼津市との境までの広範囲を受け持っている分団です。消防車輛も二台、中里と江尾に配備されております。

団員数が減少するなかで、団員同士が新人団員勧誘を積極的に行ない、本年四人の若い団員が入り、四十名までに増員できました。これからも団員増を目指していきたいと思っております。

我が九分団は、毎月の定例会と車輛点検日には、放水訓練や地域の消火栓、防火水槽等の確認を行ない、火災、災害等にすばやく対応できる様にポンプ車、小型ポンプ、消火器材等の操作訓練も行ない、団員の技術、意識向上に努めております。

消防団が期待される役割は益々大きくなっているため、防災訓練、小中学校行事などの地域行事に積極的に参加、

活動を行ない、地域の皆様とのコミュニケーションを図ることで親しまれる分団作りを心掛けていきます。

二十代、三十代の団員が八割を占める若い分団です。消防団活動を通じて団員同士の結束を図り、明るい雰囲気の中で、地域から信頼される分団を作り、諸先輩方が築いた九分団の伝統を守り、若い団員の意見を取り入れ、前向きで活気ある分団になる様、努力していきたいと思っております。

新分団長の抱負

第十七分団 分団長 赤池 幸二

第十七分団分団長として四月に早坂団長より辞命を頂き、身の引き締まる思いです。昭和五十七年に入団して、早くも二十三年余りになります。その間、訓練礼式、ポンプ車操作法、小型ポンプ操作法として参加し、その後、礼式指導員として約六年、自分なりに一生懸命頑張ってきました。指導員に指名

された時は、人に指導するなど、とても出来ないと思いましたが、自らも無我夢中でしたが、規律の大切さを改めて実感しました。

これからの時代重要なものは、地域住民が自分たちの町は自分たちで守るという気持ちをもってもらい、消防団員も足元から地域を見直すような活動をして、地区の皆様とコミュニケーションを図り防災地震等災害に対してより一層の努力をして行く事だと思っております。

しかし団員もサラリーマン化が進み、団員確保が難しい状況です。若者の社会公共奉仕意識の低下がみえます。消防団は奉仕団体で有りますが、地域に与える影響は大きいと思っております。また、消防団の面白さは異業種の魅力ある仲間との出会いであり、活動で培ったノウハウや考え方は、自分の仕事にも大きく役立っています。そんな消防団を若者にもっとPRして、元氣な消防団を目指して参画していきたいと思っております。

私は分団長である事を認識して誇りを持って、火災やその他の災害を最小限度にとどめる様努力すると共に、地域の皆様に親しまれる密着した消防団活動を展開できる様、一層精励していきたいと思っております。



分団紹介

第十分団 部長 加藤 正次

第十分団は、海と川に挟まれた、旧東海道で東西に細長く、直線距離では六キロにもおよぶため、二台のポンプ車輛で地域の防災に努めています。

消防団活動としては、月一回の定例会で、詰所の掃除、機械器具の点検、消防車、可搬ポンプでの放水訓練、連絡事項等を行なっております。

地域への活動としては、一月の子供会駅伝大会に始まり、交通安全たこ上げ大会、毘沙門天大祭、春秋の火災予防の巡回、冬の十二月から二月までの夜警の巡回、九月と十二月の地区自主防災訓練への参加があります。交通安全たこ上げ大会では、団員が海岸線(波打際)に並び、親がたこ上げに夢中になっているので子供たちが、海に近づかないように気を配っています。

毘沙門天大祭では、準備から片付けまで五日間になります。その間に団本部より団長、副団長の分団への慰労を兼ねての巡視もあります。少なくとも常時五名以上は待機しなくてはなりません。サラリーマン化した分団にとつては一大行事です。

このように分団としては地域に密着した活動をしています。消防団員としての責任と心構えを忘れないよう常日頃自覚を持って、消防団活動と訓練に励んでいます。

また、予測のできない火災、地震災害に備えて、富士市東部地区を支える第三方面隊所属の各分団と親睦を深めることにより、火災現場での連携を計り消防活動に生かして行きたいと思っております。



新型ポンプ車

第十分団 班長 影島 克己

平成十七年十二月八日、第十分団・十三分団、合同による新消防ポンプ自動車引渡し式が消防防災庁舎前で関係者の見守る中行なわれました。市長挨拶の後、新ポンプ車のキーが市長より団長に、団長より第十・十三分団長へ授与され、市議会議長祝辞、団長訓示、第十分団長謝辞、新ポンプ車披露と無事引渡し式が終了、引き続き島田公園に移動し、ポンプ車説明及び操作方法の説明を受け放水を行いました。

ポンプ車は「イスズ エルフ」、ポンプ性能は、最大放水能力毎分二千リットル、「性能のすばらしさ」に驚きました。

旧ポンプ車は昭和六十一年式ですが引き続き第十分団柏原班で活動する事になり、これからも大切に使用していきます。

これからは、第十分団員全員で一日も早く新ポンプ車に慣れ、フルに活動できる様に訓練を行なっていき、地域の皆様の期待に添える様、努力していきたいと思っております。関係者の皆様、ありがとうございます。





新ポンプ車配備 について

第十三分団 班長 関 秀治

平成十七年十二月八日、第十三分団において待望の新しいポンプ車が納車配備されました。

二十数年ぶりの新車両配備は団員が皆待ち望んでいました。オートマチック車で排ガス対応であることに皆が驚きました。運転しやすそうだということと広い運転席の窓の大きさやスムーズな加速で伝わってきます。以前は寒いときにはなかなかギアが入らず、ギクシャクな運転をしていたことが思い出されました。

十三分団においては今年二月に新しく詰所が建て替えられたばかりであり、続けてポンプ車も新車両配備となり一年間で設備環境がものすごく改善され恵まれたものとなりました。

分団員はこのことを単に享受することなく、消防活動に大事なことは、設備環境の他に人の和と、協力し合える

ことであるという事を忘れずにいたいと思いましたが、いくら最新鋭の設備があっても、それを取り扱うのは人であり使いこなせてこそ意味のあることだと思います。分団長始め、先輩方の指導のもと、早く新ポンプ車の操作に慣れ、迅速な消防活動が行えるように、仲間みんなと協力し合っていきたいと思えます。

新入団員研修を 振り返って

第十二分団 団員 秋山 孝光

五月八日、新入団員研修、周りは若い新入団員ばかり。以前から興味はありましたが、まさか今年厄年になる私が、消防団に入団するとは思っていませんでした。

みんな真剣な顔で訓練を受けています。私も負けてはいられません。

訓練指導員の気合の入った掛け声が、今も記憶に残っています。

あれから今日までに二回出動しています。初めて出動した火災は、とても大きな火災で多くの分団が出動しました。



消防団員としての心得

第十六分団 団員 甚田 雄一郎

私は平成十六年十二月に消防団員として第十六分団に入団しました。

まだ入団して日が浅く、経験も少ない未熟な私です。

入団のきっかけは、地元の先輩たちから誘いがあり、消防団の様なボランティア活動もいと興味もあつた為、入団させてもらいました。あまり火災に対しての恐怖、危険など実感が湧かない私は実際、消防活動というものの大切さなどもわかりませんでした。

しかし、訓練日等の際、先輩団員達の火災現場での話などを聴かされる度に火災に対する恐怖心がふくらみ、自分分は実際に火災現場での消火活動が行

た。長時間鎮火せず、水利も遠く消防車が縦に並び、二キロ以上あるかと思われる場所から水を送ります。初めて目にする光景でした。

火災現場は緊迫した雰囲気も満ちています。消火作業は危険が伴うので気が抜けません。ふと、新入団研修の時のきびきびした状況が浮かんできます。

規律訓練の時、「富士市消防団！」と大声を出して駆け足行進を行いました。初めて出動した火災で消防団の連携作業に遭遇しました。

安全を第一に考え一刻を争う消火作業、ポンプ操作の模範演技は無駄の無い動きで素早く放水。

やはり日頃の訓練があつてこそ、実践で発揮できる事を実感しました。

新入団員研修を振り返り、一日も早く一人前の団員として活動できる様、努力したいと思えます。

なえるのか不安感もいだが、ようになりなりました。

しかし、先日行われた新入団員教育訓練(公設市場)での教育及びポンプ車・小型ポンプなど様々な訓練を受け、少しずつ火災に対しての知識・動作が身に付くと同時に恐怖心がうすらぎ始めたと思えました。そして経験の浅い私でも先輩団員の足を引っ張らず、また人命救助の手助けに参加できるといふ自信も少しずつ付いてきました。

自分自身の知識・技術が消防団員として少しでも力を出せるよう、努力していきたいと思えます。人の命を救う為にはまず、自分自身が知識を付けておくてはならない。そして経験を積みより多くの活動に参加していきたいと思えます。

今後、様々な危険と戦う為、日々努力したいと思えます。



消防団の仕事

第十九分団 団員 大石 貴義

消防団へ入団して、一年が経ちます。

新しく入団する人が見つからないという話を聞き、それならやってみようかと軽い気持ちで入団したのですが、ポンプの点検、火災予防運動や冬の夜間巡回、地区の防災訓練など、行事は思ったより多く、仕事の時間調整も必要であり、とても大変だと思えました。

私の勤めている会社に、沼津で消防団員をしている先輩がいます。確かに今年の春だったと思いますが、夜に火災が起き、先輩も消火の為出動しました。消火には時間が掛かり、鎮火したのは早朝だったそうです。睡眠も十分取れていないというのに出動していました。

又別の方の話では、過去に数日に渡って燃え続けた火災があり、夜に消火に行き、昼間は出動し、帰ってきたら又消火に出かけたという話もありました。

消火活動は確かに大変でまた危険です。しかし、それだけ重要な仕事です。入団してから、たまにすれ違う町内の人に「苦勞様」と声を掛けられるようになりなりました。その声に応えられるよう、訓練や巡回そして消火活動を頑張っていきたいと思えます。

快拳!

小型ポンプ操法
第2方面隊
ポンプ車操法
第1方面隊

優勝 第3位



第30回 静岡県消防操法大会

小型ポンプ操法

指揮者	第七分団	班長	鈴木久幸
一番員	第七分団	団員	加藤博光
二番員	第七分団	団員	池田安伸
三番員	第七分団	団員	江本政典
補助員	第七分団	団員	石川辰也



ポンプ車操法

指揮者	第一分団	団員	上野正輝
一番員	第一分団	団員	渡辺真一郎
二番員	第一分団	団員	鈴木邦治
三番員	第一分団	団員	林 直弥
四番員	第二分団	団員	高田和英
補助員	第一分団	団員	中村 功



訓練大会を振り返って

第七分団 団員 池田 安伸

平成十六年十月十七日富士市消防団操法大会、平成十七年七月三日富士支部消防団操法大会が富士市の公設地方卸売市場、平成十七年八月六日に静岡県消防操法大会が裾野市運動公園で行われました。

私は入団して六年目になりますが、消防の訓練大会に出場したことがありませんでした。先輩方が訓練大会で優秀な成績を収めていたので自分も大会に出場したいと思っていました。そんな時、班長から二番員をやってみないかと誘って頂きやらせてもらう事になりました。

最初は詰所の近くの農協で練習が始まり、その頃の不器用な私は皆に迷惑をかけていた事を今でも覚えています。練習をしていく上で水を出したいと言えば分団長が練習場所を用意してくださり、準備など要員以外の方が夏は汗だくになり、冬は寒い中準備してくださりとでも良い練習環境を作ってくださいました。指導員の皆様には何もわからない私に一から教えて頂きました。一つの事を教わるとその前の事を忘れてしまったり、同じミスをして嫌な顔をせず教えてくださり大変感謝しております。公設市場で準備してくださった他の分団の方々にも大変感謝しております。

その結果、静岡県消防操法大会小型ポンプ操法で優勝出来ました。一生の思い出、一生の誇りが出来ました。この事を生かし消防活動を自分のこれからの人生に生かしたいと思っています。

第一分団 団員 渡辺真一郎

ポンプ車操法の部、第三位、富士支部富士市消防団。

八月六日土曜日に裾野市で行われた第三十回静岡県消防操法大会の結果でした。腹の底から喜びの声を上げ、しばらくは興奮が収まらず体が震えていたように思います。

本当に嬉しかった。表彰式の最中は今までの数えきれない程の練習、訓練、指導されてきたことが自然と頭の中で回想されていた。

このチームで練習が始まったのはもう一年半前の話、支部大会会場が地元富士市での開催もあって、当初より富士市優勝支部大会進出が強く念頭にあった。

一分団より5名、二分団より1名の構成の中、操法選手経験者が1名それぞれ選手達の仕事の都合もあって6名揃うのがやっとであった。

なぜこの訓練が必要なのか、この訓練に時間を割いて意味はあるのか。でも、入団して三年目のまだ経験の浅い自分がホースを伸ばす度に先輩団員の方々のホースを巻く姿を見ると、今はやるしかないと言いつつ効かせることができた。

市の大会で勝ち、支部の大会で勝ち県大会へ向けての一ヶ月間の訓練では胸を張って練習に励めた。ありきたりの言葉にはなるが、ここまで成長できたのは指導員と富士市消防団員のお陰だと感じることができた。

この県大会三位入賞の結果、富士市消防団員と役員、指導員の方々に良い



恩返しが出来たと思っています。不揃いの我々選手を諦めることなく最後まで指導して下さいました指導員、朝早い訓練、選手達の道具を準備して下さいました第一方面隊、訓練後、分団に戻ってからの個人的に指導して頂いた一分団の仲間。本当に我々選手だけでなく、富士市消防団で取った成果だと思っています。



訓練大会を終えて

第八分団 団員 鈴木 信貴

平成十七年七月三日、富士市の公設地方卸売市場において訓練大会が行なわれました。

入団して二年目だった自分にとって、初めての大会でした。練習が始まったばかりの時はまわりの人達について行く事で精一杯でしたが、練習を重ねていくうちに一通りの流れが分かり自分でも少しずつ上達していることを実感しました。大会が近づき、練習にはさらに熱が入り、足の角度や腕の角度など細かい部分まで指導員の方々や経験された先輩からご指導頂きました。

そして大会当日、何ヶ月も先の大会を目標に始まった練習は本場に「あつ」という間違ったような気がします。大会当日の緊張感は初めて味わうものでした。大会のために練習を重ねてきた数ヶ月間があったからこそ、得ることのできる緊張感だと思いました。大会を終えて感じたことは、

自分は多くの人達に支えられながらここまでやってこれたと思います。指導員の皆様には一つ一つの動作や節度を最後まで要員一人一人に付いて教えて頂きました。そして、第三方面隊の分団長の方々や要員以外の分団員の皆様には練習の度に応援に来て頂き、たくさん励ましの言葉ももらいました。これからのこの経験、この気持ちを忘れずに消防団活動を続けていきたいと思えます。



回顧録

富士市まとい会 野村 和稔

つらつら思うに、四半世紀以上、消防団に身を置いたことは、自分自身の歴史の中で最大の宝物と確信している。幾多の火災現場に出場し、身を挺して生命とくらしを守ったことは、心の中を爽やかな風が流れる思いであった。今にして考えれば小さな菩薩行であったかも知れない。

訓練礼式の指導員として多くの後輩を育てて来た。彼等も今、団本部・各分団を支える役員となり活躍している。

第一分団に入団して間もない頃、吉原市民会館で吟じた「消防精神」は今でも忘れることなく、心の扉を開ければいつでも取出すことが出来る。

天裂地崩驚不足
猛火洪水何俊巡
吾等使命在此際
仁侠一片当挺身
勇敢沈着又機敏
發揮消防大精神

平成元年に退団してからも、我が出身分団から諸行事にお誘いを受けるのは消防冥利に尽きる。こんな素晴らしい団体が他にあらうか。



ボクのおとうさん

第五分団 家族(五歳) 芦沢 洸樹

ボクのお父さんは五分団員です。お父さんの乗っている消防車に「5」って書いてあるからたぶん五分団だと思いません。

ボクのお父さんは「つめしよ」ってところによく行きます。だいたい夜遅く帰ってきます。ボクのお母さんは「また、しょうぼう?」っておつかない顔して言います。お父さんは、そのたびに「地域社会のためなんだよお」って背中を丸めて出ていきます。

ボクのお父さんは夜中に突然起きます。紺色の服に着替えたら、バタバタどこかへ走っていきます。でも朝には隣で寝ているから不思議です。

ボクのお父さんは、遠くでサイレンが聞こえると「ビクッ」って動きます。でも、「ああ、これは救急車かあ」と言っただけで普通に戻ります。



ボクのお父さんは、外で放送がなっている時も「ビクッ」ってします。お母さんに「5って言った? 5って言った?」と聞いて、お母さんが「5って言ったよ」って言うと、やっぱりバタバタ走っていきます。

ボクは、お父さんがあわてる時がわかりました。遠くでサイレンがなっている時と、外で放送がなっている時です。ボクが先に気づいたときは、お父さんに言っただけです。そうすると、お父さんは「お前も五分団に協力してくれてるんだなあ」とほめてくれます。ボクも大きくなったら、五分団に入りたいです。

私たちの思いを伝える...

十八分団 家族(中三) 浅井 瞳

私は今年の夏、お父さんの所属する十八分団のシャツターの絵を美術部全員で描きました。天気にも恵まれ絵は順調に進み、予定通りに仕上がっていききました。日陰がほとんどなく、日が照りつける中で作業だったので、とても暑く、長時間続けて塗ることが出来ませんでした。何度も何度も休憩をとっていきうちに、予定通りに終わるのかと不安になりました。けれど一・二年生や三年生の仲間が、私の言うことをしっかりと聞いて動いてくれたので、手間がかからず、スムーズに進めていくことができました。部活動最後の活動でシャツターの絵が描けて良かったです。私たち三年生は、この活動を最後に引退しました。一・二年生には、これからも、仲良く協力し合って活動して欲しいです。そして、十八分団の皆さんにはこれからも、私たちの住む地域をシャツターの絵のように守り続けてほしいと思います。

消防団員の家族になって

第二十分団 家族 影山 千里

主人が消防団に入団したのは娘が生まれた翌年の四月です。早いもので、十六年になりました。

入団当初は、消防活動はどんな事をするのかまったく分からず心配でしたが、先輩方のご指導により今日まで続けることが出来ました。

火事の広報が鳴ると、一刻も早く出勤しなければと、慌てて仕度を手伝えました。寒い夜は起きるのにためらう事が何度もありました。しかし消防団員としての使命感で、バツと起きていく主人を見て、慌てて飛び起きることもありました。



長い消防活動の中には、誤報が続いたり、放火などのいたずらがありました。そのような時、つらい顔で帰ってくる姿を見て、改めて皆様の苦勞が身にしみて感じられます。

平成三年三月三十一日、二十分団の新詰所落成祝賀会がありました。団員の奥様達で接待をお手伝いさせていただきました。初めて顔を合わせる方もいましたが、我が家の落成祝のように和気あいあいと楽しい一日でした。

毎年夏休みに行く家族バス旅行も楽しみの一つです。子供たちの元気なしゃぐ顔を見ていると、日頃の苦勞も飛んでいってしまうほどです。

日頃の訓練、定例会と忙しい事と思いますが、体には十分気を付けて消防活動頑張ってください。家族としてこれからも応援していきたいと思えます。

初めての出初式

第二十分団 団員 小林 克行

私は昨年友人の誘いで消防団に入団しました。それまでは消防活動は勿論の事、地域で行われる行事などにもあまり参加した事がありませんでした。

そんな私ですが消防団に入団後は各種消防活動、および地域活動に参加する機会も増えました。それぞれの楽しさや大変さ、又必要と重要性、そして総てが初めてという新鮮さ、又地域住民とのつながりの大切さ、という今まであまり感じる事なかった事を経験する事ができました。そして初めての経験となる「出初式」を迎えました。

消防職員や消防団、市内各企業の自衛消防隊員ら約千人が集い式典が催されました。分列行進を披露したり、消防音楽隊のドリル演奏、消防航空隊へのリコプターによる空中放水、はしご車、ポンプ車による一斉放水などさまざま



な行事が行われました。式典では永年勤続者やその家族、退職消防団員等、地域の防災に永年協力してきた諸先輩達の表彰も行われました。永年続けるという事はとても大変な事だと思います。それぞれ職を持ちその間に地域の防災に勤める、とてもすばらしい事だと思います。

初めて参加した出初式はとても華やかで楽しい、そんな感想を持ちました。又一年の初めに気を引き締めるという意味でも重要な式典だと思いました。

近年災害の様相が大規模化している中、全国的に消防団員が減少の傾向にあるようです。火事は勿論の事各種災害や事故等にも協力する機会がこれから増えていくと思います。又、装備が充実するに連れてそれを扱う団員等の技術の向上も重要になってくると思います。私はまだまだ新米で先輩達に教わることはありますが、地域の防災に努めるという志を持ってがんばっていききたいと思います。

消防まつり

第十五分団 班長 鈴木 秀夫

今年も消防まつりが十一月十三日好天に恵まれ多くの市民が集まり、盛大に行われた事を大変嬉しく思います。

我が十五分団もトラック山積みで用意した品物が終了時には完売という嬉しい事でした。又団員の努力により売り上げが伸びているという素晴らしい状況でもあります。

ここ数年、十五分団では焼き鳥と家庭用品を売っています。焼き鳥は本格的な炭火焼であり又、タレの調合にはこだわりがありとても好評でした。家庭用品では第一回目の消防まつりから出しているトイレットペーパー、そして金物関係、これは朝一番から掘り出し物を探しに来るお客さんで賑わいました。今年も鍋が人気で完売後も欲しいと尋ねて来るお客さんがいたほどです。アルマイトのお弁当箱は「懐かしいねえ」と声を掛けていくお客さんが多かったです。又団員の家で取れた新米やみかん、スリッパ、ほろきなど数多くの品物を出しました。どれも好評でお客さんは満足して買ってくれました。

毎年お店には団員の家族はもちろん、地元の知人、親戚、会社関係の人たちが多数来てくれます。来てくれた人たちには、時間の許す限り楽しんで帰ってもらおうと気を遣っています。そんな時がまつりならではの楽しみだと思っています。知らないお客さんとも少しづつ話が出来るといいですね。嬉しく思います。

この様に消防まつりは、団員にとっても大変楽しみな一つであり、コミュニケーションを作る場としても良い機会であると思います。来年も又多くの市民が集まる中、消防団活動を知ってもらいたいと思います。消防まつりにしたいと思えます。



消防まつり

第二十四分団 団員 渡辺 洋史

自分が消防団に入団して早八年あまり、毎年の行事としての消防まつりに参加したのも、今回で七回目、いつもなら、先輩の言うとおりの準備をして、何も考えずにいけばよかったが今回、自分と後輩二人で行事進行幹事を行うこととなった。

こりや大変だ。毎年の事とはいえ、きちんと準備ができるだろうか？はつきりいって不安だった。

ちなみにわが分団は、毎年恒例のまつりや縁日には欠かせない射的である。昨年使用したコルク銃を取り出して撃つてみる。やはりオモチャの銃だから、壊れるのも早い。昨年もまつり当日に玉が出なくなり、あわてて裏で応急修理をした経験がある。そこで、インターネットで射的を検索し、新品のコルク銃を手備として購入した。品物が手元に届いて、ほっと一安心。次に準備するのは、景品である。昨年の資料を調べて、購入は後輩にしてみよう。これも何とか一安心。だが、まだまだ不安はつづく。昨年の資料や写真を見ながら、必要なものを一つずつ準備し、他の団員にも手伝ってもらい当日の朝を迎えた。まつり会場で荷物を降ろし、設営開始。開店準備が全て終わってやっと胸をなでおろす。そしてお客の子供たちがやって来る。どの子も楽しそうだ。苦労したけど、子供たちの歓声が全てを忘れさせてくれた。

いろいろ心配し、大変だったけど、団員一丸となつての行動に助けられ、まつりを終えたことは、自分にとって非常に良い経験となった。今後この経験を生かし、よりいっそう消防活動や他の行事にも、責任をもって行動したいと思う。



消防まつり

第二十五分団 班長 秋山 晃広

今年も消防まつりがやってきました。我々、二十五分団は、恒例の「カキ氷とわた菓子」です。自分の担当は、カキ氷です。実は毎年まつりが始まるまで、天気予報とにらめっこです。今年も、まつり数日前から、気温が低く肌寒い日々が、続いていました。当日もかなり朝から冷えこんでまつりをむかえました。毎年思うことですが、お客さんが、くるかなあと楽しみです。しかし時間がたつにつれ、少しづつ暖かさが増すと安心をして、お客さんがくる、と、ほっとします。

気温の上昇とともに、人も段々増えてきて、カキ氷の前に列ができ、子供たちがうれしそうに食べる姿を目にすることができると、本当に寒いけど、カキ氷を作って「よかったなあ」という思いでいっぱいです。やはり子供たちの笑顔は、何事にもかえがたい大切なものだと思えます。

自分は今回も、盛大に行われた消防まつりの参加が十五回目になり余裕もでき、他の分団の模擬店を見に行けるようになり、訓練や火災現場でしか見ることのない厳しい顔は、模擬店では、まったくやさしい顔をしていると思自分もそういう顔でお客さんと接していると感じました。来年もまた、子供達に笑顔をあたえて、分団一丸でがんばりたいです。今後、より一層消防団活動に努めて行きたいと思えます。

今年いざ「優勝」が

第三分団 班長 山本 英樹

私が三分団に所属し十年余りが過ぎましたが、ソフトボール大会での優勝経験はありません。

今年はいよいよ責任をまかされ、「今年こそは優勝！」と思い、練習計画を立てました。しかし、練習予定日は雨となり、たった一度の練習で大会に臨むこととなりましたが、優勝する自信がありました。試合に勝つ組立てが頭の中で描くことができたのです。

いよいよ大会当日。しかし「雨」、私が責任者となり分団のソフトボール運営にあたったせいなのか？練習も大会当日も雨。私は雨男なのか？でも、中止の連絡はありません。天候の回復を見越し決行することになりました。

私は「よし！優勝するぞ！」と心に誓いました。一試合目が始まりましたが、グラウンド状態も悪く、また、雨も一向に上がる気配がありません。選手達も悪戦苦闘しています。これは無理だなと思っていると、本日より「試合中止」が伝えられ、勝敗は全試合抽選で決することになりました。私は抽選が苦手、周りを見廻し分団長を探しましたが見当たらない。同僚に分団長を探すように言ったところ、「山ちゃんが責任者だからいいんだよ。負けても問題ない。」と言われました。覚悟を決め、やるしかないと思っていると、遠くから分団長が走ってきた。「ホッ」と胸をなでおろし、分団長に託すことにしました。

さあ、決戦！「分団長よろしく」と声をかけ、一回戦を見守った。勝ち！その後、順調に勝って、「優勝」。今年こそは「優勝」が、形は違えど実現。来年は、実力で優勝を狙います。

富士市カラーガード隊だより

こんにちは。富士市カラーガード隊です。

皆さん、カラーガード隊ってなにかご存知ですか？知らない人のためにまずはカラーガードの説明からお話いたします。

元々カラーガードのカラーは国旗を意味し、カードは護衛を意味するもので、国旗や軍旗・隊旗を護衛するための兵隊(軍旗護衛兵)が元来の語源といわれています。後に、その旗を操作するしぐさが、きびきびとしていることからマーチングに取り入れられるようになり、旗を操作してマーチングで演技を行う者たちを



総称してカラーガード隊(チーム)

といわれるようになりました。現在では色鮮やかな旗を使用したダンス的な要素を取り入れた高度な動きや、ポンポンを使った演技など、マーチングバンドの演技をより華やかに演出するようになりました。

消防団ソフトボール大会

第二十六分団 団員 目黒 絢也

ウィース(おはようございます) 昨晩から降り続いた雨は、当日になっても止む気配はなく、ソフトボールやるには最悪のコンディション。

中止と思われたが、一時間遅れての開会式。我が二十六分団は、優勝経験があるものの、昨年は、一回戦負け。今年はいい成績をおさめようと、はりきっていた。

トーナメント表でもなかなかいい場所を引き当て今年はいけると思われた。開会式が終わり、一回戦が始まった。一時間後、雨足が強くなり、急遽ジャンケンにより優勝を決めることになった。そして、我が二十六分団は、今年も一

どうですか？お分かりいただけでしょうか。

現在、富士市カラーガード隊は富士市消防音楽隊とともに、富士まつりや消防まつり、消防出初式、防火パレード等に参加しています。

もうひとつ皆さんにお知らせです。私たちと仲間になって、いっしょに演技してみませんか。現在、隊員を大募集中です。十八歳以上の女性の方なら入隊可能です。詳しいことは富士市消防本部管理課(054515512852)に問い合わせをしてみてください。よろしくお願ひします！



編集後記

毎年発行を続けている「消防団だより」も今年で第16号を発行するに至りました。これもひとえに、原稿を寄せていただけた消防団員、その家族、OB、関係者等皆様のご協力の賜物であります。深く感謝申し上げます。

「継続は力なり！」この言葉とおりに「消防団だより」の発行を続けてきましたが、紙面も年々充実し、内容も多岐にわたるものになってきております。

また、市民の皆様に配布するようになったことで、消防団活動をより一層ご理解いただけるようになったものと思っております。この効果もあり、全国的に消防団員減少に歯止めがかからない中、当市においては微増ながらも団員増に転じ、全国表彰を受けることが出来ました。今後

もおこることなく、より良い「消防団だより」になるよう努力していきたいと思ひます。

広報紙編集委員長

富士市消防団広報紙編集委員

- 委員長 第五方面隊長 望月 信男
- 副委員長 第十二分団 副分団長 長尾 文彦
- 委員 第二十五分団 班長 本多 信行
- 委員 第十分団 部長 鈴木 貴之
- 委員 第十三分団 部長 千葉 和男
- 委員 第二十六分団 班長 齊藤 正道
- 委員 第二十二分団 班長 矢川 仁美